



海外研究支援プログラムにより、2018年10月1日から2018年11月23日までスペインのアリカンテ大学(物理・システム工・信号理論学部)の応用音響研究室にて研究を行なっている八田です。今回は研究の進行状況に加えてスペインの生活をご紹介します。

研究について

現在私は上記のアリカンテ大学にて、掃除機音の主観評価実験を行っています。この研究の目的は、近年市場に出たばかりのロボット掃除機の運転音がユーザの心理状況の違いが不快さにどのように影響するかを明らかにすることです。

スペインの学部3年生20人に実験に協力をしてもらい、約1か月で実験を終了させました。帰国3日前に実験を終了したため、分析は日本でスペインのメンバーと連絡を取りながら行っています。結果としては受動的に音を聞いている方が感じている不快さは大きいことが判明し、その差を定量的に把握するために分析を行なっているところです。



日本語授業について

アリカンテ大学は総合大学なので語学部があり、スペイン語を学ぶ日本人留学生の受け入れを多く行っています。その逆に日本語を学ぶスペイン人もいます。

日本語授業を取っている学生と友達になれたので、その内容を教えてもらうことができました。

レベルは5つあり、その子はレベル5だったので、漢字の勉強をしていました。また、レストランや店での会話を聞いて文章の穴埋めをしたり、日本文化を動画で視聴したりなど我々が英語を勉強し始めた時と同じような授業内容で、とても楽しそうでした。



スペインの生活について

アリカンテは都会でもなく田舎でもない場所だったので初めて海外長期生活をする場合には非常に過ごしやすい場所だったのではないかと思います。

日本と違うところは、スーパーの食材は量り売り、飲食店以外は日曜日定休日、大きい市場があり盛況である、買い物袋は有料、きちんと整備された自転車用道路、路駐が普通、次のバス停名が車内で表示・アナウンスされないバス、定時になればすぐ帰れるなどなど...生活文化の違いを体感することができました。

スペイン人の性格はのんびりしていて(生活スタイルもですが)フレンドリーな人が多いです。スーパーでわからないことがあったとき、近くにいたお兄さんに尋ねたところ一生懸命答えようとしてくれました。一人の生活に孤独を感じていた私は、それだけでとても嬉しくなりました。同時に何に対しても挑戦することは非常に大切なことだと痛感しました。何事もチャレンジした者勝ちですよ！

